



A型肝炎に注意。手洗い、加熱調理で感染予防を！

令和2年7月1日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)

感染症発生動向速報

(令和2年第26週分・6月22日～6月28日)

《インフォメーション》

●A型肝炎

A型肝炎は、A型肝炎ウイルスを原因とする急性感染症です。感染経路は、汚染された食物（水、氷、野菜、果物、魚介類など）を摂取することでおこる経口感染です。過去には、貝類による集団感染も発生しています。また、性的接触による感染もあります。

全国におけるA型肝炎の患者報告数は、毎年約100～300例で推移しており（表参照）、感染経路の約7割が経口感染でした。

2018年は全国で患者数が増加しましたが、男性間での性的接触による感染が例年より多く報告されました。県内の過去5年間における患者報告数は年間5例以下でしたが、今年には既に10例が報告されています。その内9例が新川厚生センター管内からの報告でした。現在、同地域での症例増加の原因について調査中です。

A型肝炎の潜伏期間は2～6週間程度（平均4週間）で、発熱、全身倦怠感、食欲不振・嘔吐などの消化器症状、黄疸などの症状を呈します。乳幼児の感染では症状が軽いことが多く、年齢が上がると症状が重くなる傾向があります。一般的に予後は良好ですが、まれに劇症化し、死亡することがあります。特別な治療方法はなく、対症療法のみです。

感染した場合は、発症前約2週間～発症後数か月と長期にわたり、便中にウイルスが排出されることがあります。そのため、症状が消失した後も手洗いなどを心がけて、他人に感染させないように注意しましょう。食材の十分な加熱調理（85℃、1分以上）などにより、感染しないように対策を行うことも重要です。A型肝炎はワクチン（任意接種）で予防できる疾患ですが、わが国の50歳以下の成人の抗体保有率はほぼ0%とされています。流行地（アジア、アフリカ、中南米など）への旅行者、医療従事者、慢性肝疾患などの基礎疾患を有し抗体を持たない者などのA型肝炎の高リスク者ではワクチンの接種が望まれます。接種する際は、医療機関にご相談下さい。

《全数報告の感染症》

- 二類感染症 結核 2件 (①70歳代、男性 ②80歳代、女性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2件 (①10歳未満、女性、O103、VT1)
(②70歳代、男性、O157、VT1VT2)
- 四類感染症 A型肝炎 1件 (70歳代、男性)
レジオネラ症 4件 (①第14週診断分：80歳代 ②第25週診断分：60歳代
③40歳代 ④50歳代 ①～④すべて男性、肺炎型)
- 五類感染症 アメーバ赤痢 2件 (①第25週診断分：60歳代、男性、腸管アメーバ症
②50歳代、男性、腸管アメーバ症)
- 梅毒 1件 (第23週診断分：70歳代、男性、無症候)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患		定点あたりの数	
順位	疾病名	今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	2.00 (↓)	2.38
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.14 (→)	1.14
3位	突発性発しん	0.69 (↑)	0.45
4位	咽頭結膜熱	0.10 (↑)	0.07
5位	手足口病	0.07 (↑)	0.03
	ヘルパンギーナ	0.07 (→)	0.07
	流行性耳下腺炎	0.07 (↑)	0.00

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

	2015	2016	2017	2018	2019	2020※
全国	243	272	285	926	425	73
富山県	0	5	3	4	3	10
新川			2		2	9
中部		3				
富山市		2	1	4	1	1
高岡						
砺波						

※2020年第26週(～6/28)時点速報値

○感染症発生動向調査報告状況（令和2年第26週 令和2年6月22日～令和2年6月28日）

分類	疾患	今週報告分（第26週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
指定感染症	新型コロナウイルス感染症							5	5	17	7	193	227
二類感染症	結核			1		1	2	7	2	20	5	19	53
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症					2	2			5		6	11
四類感染症	E型肝炎							2					2
	A型肝炎	1					1	9				1	10
	デング熱											1	1
	レジオネラ症			1		1	2	1		8	1	6	16
五類感染症	アメーバ赤痢				1		1				1	2	3
	ウイルス性肝炎											1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症							1		3	1	3	8
	急性脳炎							2				1	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2		4	6
	後天性免疫不全症候群											1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症							1		2		4	7
	水痘（入院例）							1	2	2		2	7
	梅毒							2		3		10	15
	破傷風											2	2
	百日咳											24	26
	定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ			1			1	625	290	891	567	1,190
				0.08			0.02						
RSウイルス感染症								2	5	26	4	36	73
咽頭結膜熱		2		1			3	61	56	91	8	71	287
		0.50		0.13			0.10						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	2	13		15	33	99	167	1,044	161	1,257	2,728
		0.75	0.67	1.63		1.50	1.14						
感染性胃腸炎		13	10	12	2	21	58	659	379	490	236	1,385	3,149
		3.25	3.33	1.50	0.50	2.10	2.00						
水痘				1			1	29	29	49	16	88	211
				0.13			0.03						
手足口病				2			2	18	1	15	4	41	79
				0.25			0.07						
伝染性紅斑								9	26	28		158	221
突発性発しん		2		4	2	12	20	18	14	96	34	75	237
		0.50		0.50	0.50	1.20	0.69						
ヘルパンギーナ		2					2	37		8	1	3	49
	0.50					0.07							
流行性耳下腺炎			1		1	2		3	4	4	8	19	
			0.13		0.10	0.07							
流行性角結膜炎								5	7	2		14	
細菌性髄膜炎									1			1	
無菌性髄膜炎										1	5	6	
マイコプラズマ肺炎							1	5	16	16	9	47	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）									2	2		4	
インフルエンザによる入院患者（*）				1		1	42	5	28	74	53	202	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)～の集計です。